

# アスパラガス高温期における品質向上対策について

令和3年7月 アグリ技研（株）

## 1.収量・品質状況について

- ①収量＝梅雨明け後の気温上昇より収穫量も減少傾向（若茎の下位階級増加M・Sクラスの増加）
- ②品質＝穂開き・裂け茎・若茎の曲りなど例年以上の品質低下（収穫量の20～30％・品種による格差）

## 2.品質向上対策について

管理面	対策	資材（肥料）
水管理	土壌表面や隣芽群の乾燥は休眠や同化能力低下となるために、晴天日の灌水は 毎日数回（2～3回）を少量多回数灌水する。灌水の気化熱で下温効果も期待できる。 <u>「斑点性抑制のために十分な換気も取り行う」</u>	
温度管理	本来生育適温は25℃前後 施設の遮光資材（高温期のみ）や循環扇、妻面の開放など工夫する。遮光することで地温抑制にもなるので品質向上にも繋がる。	遮
地温抑制	地温25℃以上になれば極端に格外品増加となるので表面の温度を抑制する。 小まめな灌水とカルシウム材の処理⇒⇒ <b>カルタマQ（卵殻）5～10袋/10a</b> 「地温抑制とカルシウム補給」	
茎葉の整理	①二次葉・枝の過剰は、樹勢低下（光合成低下）となるので茎葉整理と <b>PKゴー2～3000倍処理（品質向上）</b> ②下枝の極端な除去は、畝表面に直性直射日光を当てるので品質低下となる（軽めな除去作業）	
施肥の対応	・発根促進、樹勢維持⇒⇒ <b>アミクエ</b> を月に3回程 5～10kg/10a（灌水処理）	
	・アミノ酸液肥⇒⇒ <b>ウルル10号</b> を月に3回程 10～20kg/10a（灌水処理）	
	・光合成促進、葉色濃⇒⇒ <b>クドグリーン</b> を月に5回程 500倍（葉面散布）	
	・草勢維持⇒⇒ <b>コラーゲン・ラボ</b> を月に5回程 500倍（葉面散布）	
	・茎葉硬化、太物増加⇒⇒ <b>PKゴー</b> を月に3回程 2000倍（葉面散布）	

通常の施肥（振肥）は、収穫量に応じてNを高めましょう。